

# 家庭の廃食油 地域で回収

## 西区で実験スタート

使用済み天ぷら油など、家庭の廃食油を地域や学校ぐるみで回収する試みが、今月から札幌市西区で始まった。区内の連合町内会長や学校関係者らでつ



くる「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」のモデル実験に三町内会と二小学校

のPTAが参加。来年四月以降は、区全体に広げることを目指している。

市は、すでにスーパーなどの店舗を通じて家庭の廃食油を回収しているが、町内会やPTAで取り組むことで、回収の機会を増やすのが狙いだ。専門業者の回収日は毎月第一土曜日。町内会は公園などに専用のポリタンクを置き、小学校では、前日までに児童が持ち寄る。集められた廃食油は業者がバイオディーゼ

ル燃料(BDF)を精製して、ごみ収集車などに利用。町内会や学校には、廃食油一リットルあたり五円程度が手渡され、各団体が環境美化活動などに充てる。回収初回の今日一日は、計六十一リットルの廃食油が集まった。参加団体の一つ、京成サンコーボ琴似台自治会の西内征幸会長は「廃食油を流すと排水管が詰まる原因になるだけに、回収をもっと周知したい」と話し、リサイクルとの一石二鳥の効果を歓迎している。

(星野真)